



社会福祉法人江東楓の会 編集責任者 理事長 伊藤 善彦
発行所 江東区東砂 6-2-14-3F TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

理事長あいさつ

社会福祉法人江東楓の会 理事長 伊藤 善彦

日頃より当法人運営にご協力ご理解いただき、誠にありがとうございます。皆様よりお力添えいただき、江東楓の会も無事 21 年目を迎えることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

江東楓の会は平成 15 年 4 月に江東区亀戸福祉園の受託運営から始まり、現在は生活介護や就労系の通所施設、グループホーム、短期入所や緊急一時保護事業、ヘルパー事業、相談支援事業など多岐にわたり事業を運営するに至りました。

江東区亀戸福祉園の開設当初より「障害のある人一人ひとりの人権と意思を尊重し様々な場面での自己選択を大切にします。」を法人理念に掲げています。どんな障害を持つ方でもその方の気持ちを汲み取り、大切にすることを日々の支援の中で職員と共に考え取り組でまいりました。また、利用者の生活を支える上で大きな課題となる「親なき後の生活」についても、先延ばしにするのではなく、積極的に考えサービスに繋げることで、その人らしい生活を続けることができるよう支援をしてきたと自負しております。地域法人として地域の中で利用者が生活していくためには、沢山の人の関わりを持つことが必要と考えています。施設内や法人内で支援を完結させず、色々な事業所や団体、地域資源と結びつきながら一丸となって地域生活を応援していきたいと思っております。そのためにまずは施設内では安心して笑顔で過ごすことができることを目標として、「職員みんながみんなを支援する」をキャッチフレーズに支援の輪を広げていくことに取り組んでいます。（コロナ禍で感染対策の為グループ化も余儀なくされていましたが…）課題は多くありますが、画一化された支援ではなく、利用者のいろいろな一面を引き出すことができていると実感しています。社会情勢や時代と共に障害者福祉についても一層速いスピードで変化していくことが予想されます。利用者や職員のそれぞれの個性を受容しながら、関わりの中で互いに成長できる「楓らしさ」を大切に今後とも利用者のニーズに寄り添い支援していきたいと思っております。

第 52 回会報テーマは『新年度を迎えて』とさせていただきます

「新年度を迎えて」

共同生活援助かえで

管理者 仲俣 圭

世の中では少しずつコロナ禍以前の生活スタイルに戻ってきつつあるようです。各施設・事業所ではお祭りイベントが計画されているようで、利用者の皆さまも楽しみにされていることと思います。こういった中グループホームかえででも今年は何か行事を再開しようかと考えています。グループホームは生活の場なので、イベントがあることは生活に潤いをもたらします。とはいえ人によって好き嫌いもあるので、あれこれイベントの数を増やせばよいではありません。が、(私が古いタイプの間人だからでしょうか)季節の節目々々の行事は大切にしていきたいものです。

またこのコロナ禍は利用者の皆さまのみならず、多くの人に“運動不足”と“体重増加”をもたらしました。もちろん私もその例に外れていません。自戒の念をこめて、体を動かすような機会を考えていきたいと思っています。生活がコロナ禍以前に戻るなら、体だってコロナ禍以前の状態に戻さないと、、、です。

最後に私事になりますが、先日法人職員研修の際に特別表彰をいただきました。思ってもみなかったことで、自身とても驚きました。個人的に嬉しい思いはありますが、それよりもこれはいわば『チーム GH かえで』にいただいた表彰だと思っています。私個人がどれだけ頑張ったとしても、それはあくまで個の力。多くの方に力を分けていただかなくては、とても 16 人の利用者の皆さまの生活を支えていくことはできません。改めてグループホームかえでを支えて下さっている世話人の皆さまに、関わっていただいている皆さまに、この場を借りて感謝をしたく思います。ありがとうございます。そしてこれからもぜひ皆さまのお力をグループホームかえでにいただけたらと思います。

令和 5 年度も『チーム GH かえで』一丸となって、より良い支援を提供できるよう精進していきたいと思っています。そしてまた年末に利用者の皆さまと『今年は〇〇だったねえ』と楽しく振り返れる一年にしていきたいと思っています。

「新年度を迎えて」

楓の会ヘルパーセンター

支援員 萩原 洋

新年度を迎え、コロナ感染症も季節性インフルエンザと同じ 5 類へと引き下げられ、世の中の状況が少しずつ元に戻りつつある今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、楓の会ヘルパーセンターは NPO 法人時代から含めるとこの春で 20 周年を迎えることができました。これは、皆様のご協力があったからこそ続けられたことと思います。事業開始当初は、江東区手をつなぐ親の会の事務所をお借りして始まった小さな事業所でしたが、今では当時のことを知っている人間は私ただ一人となってしまいました。当時から現在まで変わらずに利用者に寄り添ってきた 20 年です。

この 20 年間で培った様々なことを胸に 21 年目を邁進していきたいと思っています。今後とも楓の会ヘルパーセンターへのご協力をお願いいたします。

余談ですが、当事業所ではヘルパー絶賛募集中です。

「Mr. ラッキーボーイ・AMINO」

高齢障害者通所施設さくら 支援員 網野 開斗

私は今年度から楓の会に入社し、さくら分室に勤務しています。主な仕事内容はパンを作り、売ることです。最初この現実を突きつけられたときは、「パンなんか、作ったことないよ」とか、「作る派より、食べる派なんだよな」とか様々な言葉が頭の中を飛び交いました。しかし、それより衝撃的だったのは、施設長から今年の9月にさくら分室が閉所すると言われた時でした。慣れた時に新しい事業所に異動することを考えるとなんだか不安な気持ちになりました。そんな感じで、少し想像と違う社会人1年目がはじまりました。実際に働きはじめると、朝の4時には起き、片道2時間かけて通勤し、帰りは満員電車で揺られながら帰るといった生活を送っています。ですが、なんだか仕事に行くのが辛くないのです。なぜ、辛くないのかを考えると、良い先輩職員に恵まれているからです(嘘ではないですよ)。そのため、毎日帰る時は清々しい気持ちになって帰れます。想像と違った社会人生活ですが、これはこれで悪くないです。最後に、I' m a lucky boy !!!



「新年度を迎えて」

ワークセンターつばさ 支援員 清水 大稀

私は、新卒でこの法人に就職しました。1年目はもちろん2年目も仕事を覚えることに必死であり、自分から何か発信することよりもまずは人の話を聞くことを重点的に行ってきました。

新年度を迎え、体制が新しくなり気付けば私が新卒で入職したころから在籍している職員は、事務、係長、施設長をのぞくと現場職員は3名程になりました。その為、私が引継ぎを行う機会が増えました。今まで聞くことに重点を置いていた為、いざ自分が説明をする立場になった際、どのように利用者の特性を伝えたら良いのか、作業はどのように説明したら正確に伝えられるのかと、とても苦戦しました。そこで今まで日中活動が円滑に進められていたのは、同じ施設で働いている先輩職員の方々が支えてくれていたおかげで、聞くだけでも成り立っていたんだなと痛感しました。

今後は、小さなことでも何か一つ発信していけるよう、ケースの時間や日常会話から意識していきたいと思います。また、聞くことも継続していき初心を忘れないようにしていきたいと思います。

「新年度を迎えて」

江東区リバーハウス東砂 支援員 高橋 愛美

リバーハウスに来て1年が経ちました。異動当初は慣れない夜勤や変則勤務のため、体調管理に苦勞しましたが、声を掛け合って助けてくれる先輩方や同僚のおかげで、無理なく楽しく働くことができています。

リバーハウスの短期入所事業では、毎日いろいろな方が宿泊されます。日中の通所先も年齢もさまざまです。私はほとんどの方と初めて顔を合わせる状況だったので、どんな方なのだろう？何が好きかな？苦手かな？などと考えながら、いろいろな声掛けや関わりを試みて、利用者さんを知っていきました。昨年度はコロナウイルスの感染状況が少し落ち着いてきたということもあり、新規契約や久しぶりの利用の方が多くいました。新しく知り得た情報や配慮が必要となることは、職員間でよく話し、その人にとって心地よい環境を探していきました。交替勤務であるため、引き継ぎの仕方に工夫が必要だなと実感することも多々ありました。利用者さんとは、繰り返し顔を合わせ、関わりを持つ中で少しずつ信頼関係を築くことができてきました。

利用終了時に、保護者の方より「おかげでゆっくり休めました」とのお声をいただいた時は、この仕事の意義を強く感じました。利用者さんの中には、穏やかにリラックスして過ごされる方や楽しみな気持ちで来てくださる方々がいます。その一方で、初めてのことや慣れない環境に不安を感じている方も見受けられます。その不安な気持ちを払拭するためには、より丁寧な言葉かけや関わりが大切だなと感じます。また、宿泊訓練として利用される方もたくさんいるので、一泊一泊の経験がそれぞれが望まれる将来の生活（施設入所など）への糧になればと思います。

皆さんが安心・安全に利用できることはもちろんのこと、また行きたいなと思ってもらえる施設になるよう、職員間でアイデアを出し合いながら、次もたのしみ！と思って頂けるリバーハウスを作っていきたいです。

「令和5年度！」

江東区亀戸福祉園 支援員 小高 郁乃

気付けば私自身、亀戸福祉園に入職をして7回目の春を迎えました。新しい職員や新しい利用者も加わり、新しい仲間とのスタートを切りました。

昨年度までコロナ禍の3年間の中では、例年行っていた、たくさんの行事や外出を泣く泣く諦めることも多くありました。その度に「利用者が安心して他に楽しめることはないだろうか」「どうしたら、亀戸に来てよかったと思えるだろうか」と職員全員で知恵を絞りあい、コロナ禍の中でも充実した生活を送ることができるように取り組んできました。

今年度は、コロナウイルスも5類感染症に移行し、少しずつ以前の生活を取り戻してきています。その中でも環境を整え、安全を確保したうえで、外出や季節ごとの行事を企画していきたいと思っています。亀戸福祉園全体で、利用者の可能性を広げ、充実感や満足感を高め、笑顔あふれる1年間にしていきたいと思っています。また、それ以上に私たち職員が利用者との生活の幅を広げていけることにワクワクしています。利用者と一緒に一つ一つの行事を、全力で楽しんでいきたいと思っています。

「新年度を迎えて」

若竹作業所

支援員 戸松 和恵

今年の若竹は新年度のスタートとほぼ同時に、仮移転先での新生活がスタートしました。どんなルールなら利用者の方々が快適に過ごせるか、どこに物を配置したら使いやすいかなど、移転前や移転後も毎日振り返り、職員も手探りで準備を進めてきました。移転に伴って一日の時間の流れや休憩時間の過ごし方など、これまで慣れてきたことがガラッと変わり、利用者の方々に受け入れてもらえるか不安もありました。そんな不安をよそに、二週間も経てば利用者の方々のほうが新ルールの覚えが早く、「作業時間は〇時までだよ。」などと教わる場面もあり、その受け入れの早さに経験の豊富さを感じ、改めて人生の先輩なんだなと実感しました。また、長く苦しめられた新型コロナウイルスも5月からは5類となり、ようやくコロナ前の生活を取り戻しつつあります。しばらくできなかった行事も今年度は復活し、これまで我慢していたことも少しずつ解放されていくことと思われれます。コロナ禍でも職員は変わり、行事を知る職員も少数となり、さらに仮施設での生活で、日々新たなスタートを切る毎日です。そんな中でも、やりがいのある作業や楽しい行事を待ち望む利用者の方々の気持ちは変わりません。利用者一人ひとりの意欲や楽しみな気持ちを大切に、私たちも日々の新たなスタートを新鮮な気持ちで奮闘していきたいです。

「新年度を迎えて」

江東区あすなろ作業所 支援員 松島 かおり

新年度新しい職員も4名入りあすなろ作業所に新しい風が吹いております。その中でも利用者の皆様は変わらずに笑顔で挨拶を下さり、作業中も皆で「手伝うよ!」とお互い助け合い暖かい雰囲気の中で作業を行っています。

昨年度から少しずつ行事が復活し、利用者の皆様がとても楽しそうに参加されていることで職員もとても嬉しく思います。2~3月にはセレクト外出に行き、少人数で希望の場所に出かけてました。しながわ水族館や浅草花やしき等の観光地に行った班、ボウリングに行き身体を動かした後に美味しい焼肉を食べに行った班、ディズニーランドに行ってシンデレラと写真を撮った班など各々充実した内容となり「また行こうね!」と嬉しい言葉が聞かれました!

作業では新しく布の端切れを使ってリボンを作る仕事が入っています。雑巾を縫う時よりも強く糸を引く必要があるため、力具合を見極めながら丁寧に仕上げています。色々なデザインの布を使うので出来上がりのリボンも1つ1つ違っており、完成した作品を見るのも楽しみの一つとなっています。

今年度も利用者さんと楽しみを見つけながら安心して過ごせる場所となるようにしていきます。



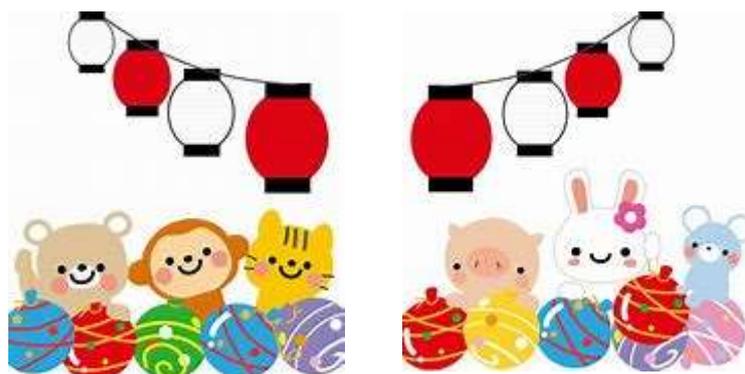
「方向性を一つにして」

第三あすなろ作業所

支援員 石村 哲郎

今年度最初の大きい行事は、5月27日（土）のお祭り「サン3フェスティバル」です。新型コロナウイルスの流行により中止や代替のイベントを企画しながら行ってきましたが、4年ぶりに地域の方と交流出来るような以前の形（規模縮小とはなりましたが）に近い実施となりました。その間職員の入れ替わりがあり、当時のお祭りを経験したメンバーが少なく、以前の状況を踏まえながら情勢に合わせての開催を目指しスタートしました。何から進めていけば良いのか手探りの状況もありましたが、総括の取り仕切りを筆頭に、各担当で情報を共有しながら進めてきました。その中で最も大切にしてきたのは「参加して頂いた方に楽しんでほしい」という気持ちを持って取り組んできたことです。途中で悩んだ時にも「こうしたらどうだろう」と全員で考え、考えていく中にドキドキやワクワクが募り「一回やってみようか」と前向きな思考を持つことで不安もありながら協力して進めてくる事が出来ました。

目指すゴールを合わせることで、進め方は違いますが一つにまとめることが出来ると改めて感じました。日々の支援や作業の中で、話し合える時間も多くはありませんが、今後も共通の目標が持てるよう、意識しながら仲間と仕事していきたいと思えます。



編集後記

会員の皆様には日頃より当法人の運営にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今号では「新年度を迎えて」をテーマに、各記事を作成しております。5月8日から「新型コロナウイルス感染症」が「5類」となり、我々を取巻く社会環境にも「規制緩和」という大きな動きが起きています。各事業所においても、施設祭りの開催、利用者の活動も、事業所ごとに様々な規制緩和がはじまっております。一方で6月7日に行政からは「感染者が緩やかに増加傾向にある旨」が発表されました。感染対策と活動の充実を両立し、実りの多い一年になることを目標に頑張ってまいります。

楓の会 令和4年度決算報告

楓の会の理事会・評議員会が開催され、令和5年度決算が承認されました。

貸借対照表

単位:千円

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	267,837	流動負債	206,195
基本財産	10,000	固定負債	54,977
その他の固定資産	181,327		
		負債の部合計	261,172
		純資産の部	
		基本金	20,500
		国庫補助金特別積立金	2,236
		その他の積立金	113,890
		次期繰越活動収支差額	61,366
		純資産の部合計	197,992
資産の部合計	459,164	負債及び純資産の部合計	459,164

資金収支計算書

単位:千円

事業活動収入	955,787
事業活動支出	965,238
差引事業活動収支差額	△ 9,451
施設整備等収入	97
施設整備等支出	1,169
差引施設整備等収支差額	△ 1,072
その他の活動収入	25,996
その他の活動支出	28,097
差引その他の活動収支差額	△ 2,101
当期収支差額	△ 12,624
前期末資金支払残高	96,591
当期末資金支払残高	83,967

事業活動計算書

単位:千円

サービス活動収益	945,697
サービス活動費用	967,270
差引サービス活動収支差額	△ 21,573
サービス活動外収益	10,089
サービス活動外費用	7,158
差引サービス活動外収支差額	2,931
特別増減収益	157
特別増減費用	87
差引特別増減収支差額	70
当期活動収支差額	△ 18,571
前期繰越活動収支差額	79,338
その他の積立金取崩額	22,600
その他の積立金積立額	22,000
次期繰越活動収支差額	61,367

※なお千円以下記載省略のため差異あり

第 18 期楓の会後援会収支報告

下記のとおり第 18 期楓の会後援会の収支報告を致しました。

収入の部		
前期繰越	43,020	
後援会会費	685,000	
寄付	85,278	
受取利息	4	813,302

支出の部		
会報用紙代	8,921	
振込手数料	7,252	
郵送代・会報発送代	14,276	
総会飲食代	0	30,449

収支差額		782,853
------	--	---------

これを次のように精算します。

楓の会への寄付金	0
次期繰越金	782,853

令和 5 年度 後援会会員名簿

<賛助会員> (第51号からつづく)

井口 智也 井口 晴美

(敬称略、順不同)

(なお、令和 5 年 6 月 3 日以降 賛助会員は次号につづく)

ご寄付

ご寄付を賜り誠にありがとうございました

○ 浦野 直人 様

ご寄付いただいたものは、法人の事業に使わせて頂いております

す